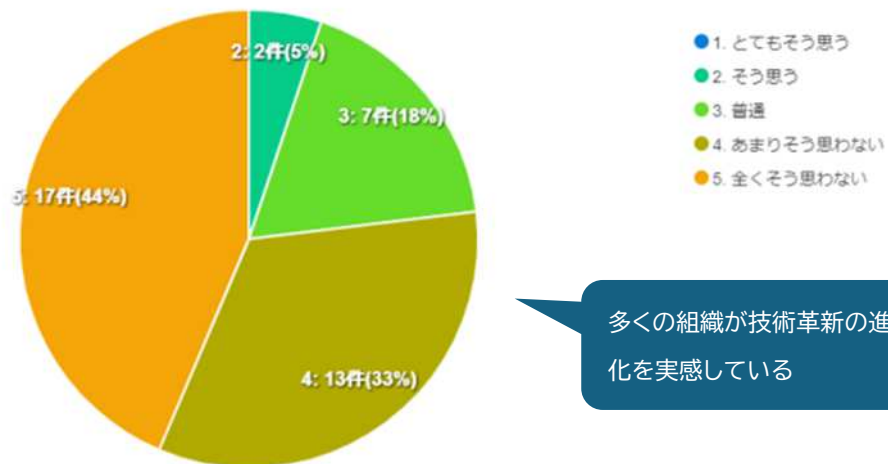


## ■川越市ウォーターPPP 事業者アンケートの結果(事業者の現状と課題)

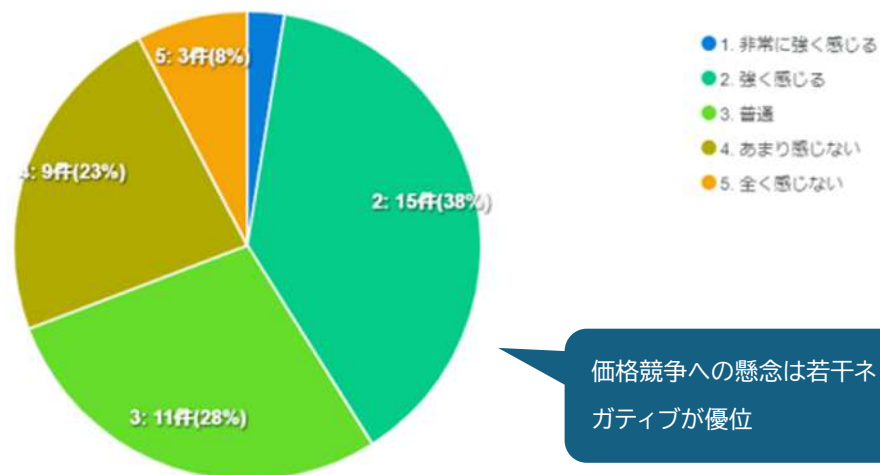
(1) 技術革新は進んでおらず、基本的な作業は30年前と変わっていない。

○ 傾向を示唆する反応



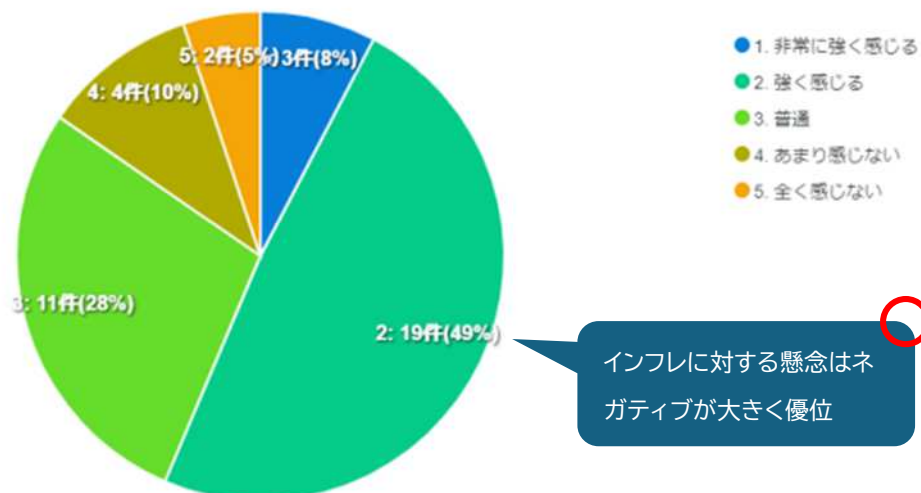
多くの組織が技術革新の進化を実感している

(2) 単年発注による価格競争に対し、事業の収益性確保に危機感を感じている。



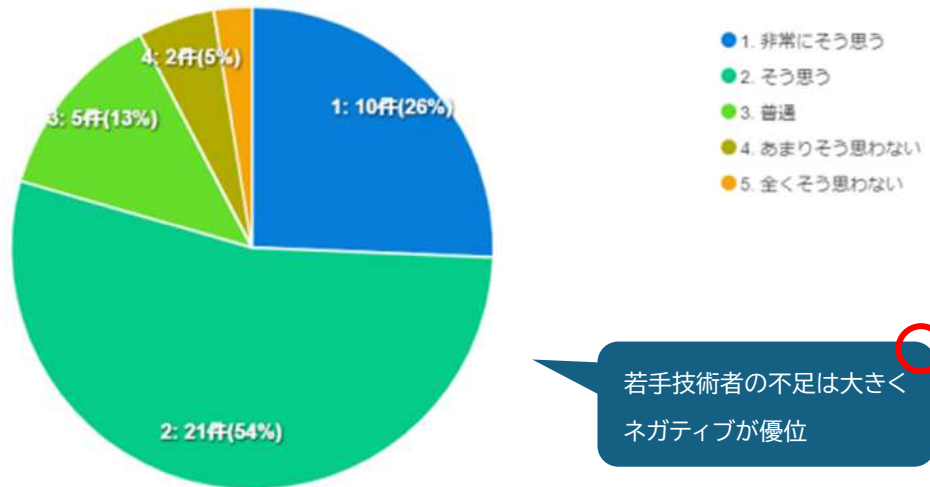
価格競争への懸念は若干ネガティブが優位

(3) 将来的なインフレによる材料費高騰などに対し、事業の収益性確保に危機感を感じている。

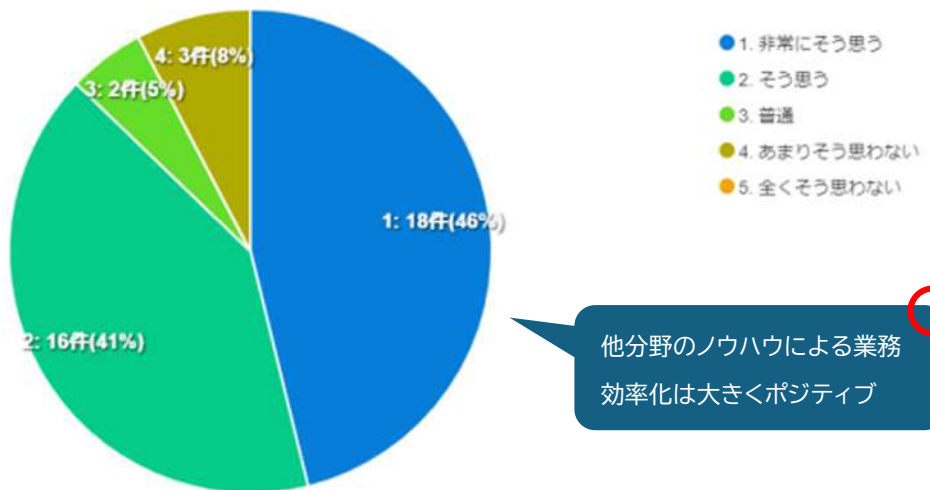


インフレに対する懸念はネガティブが大きく優位

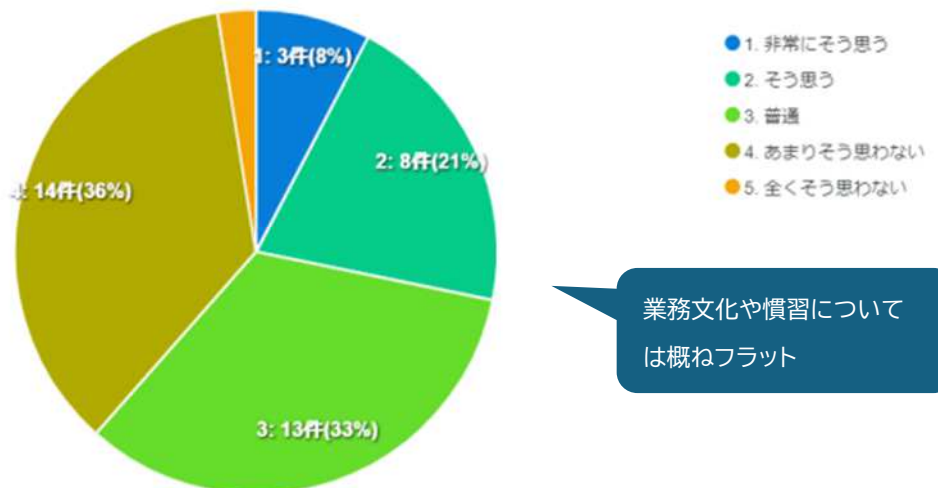
(4) 少子高齢化による担い手（特に若手技術者）の不足が、事業継続の脅威である。



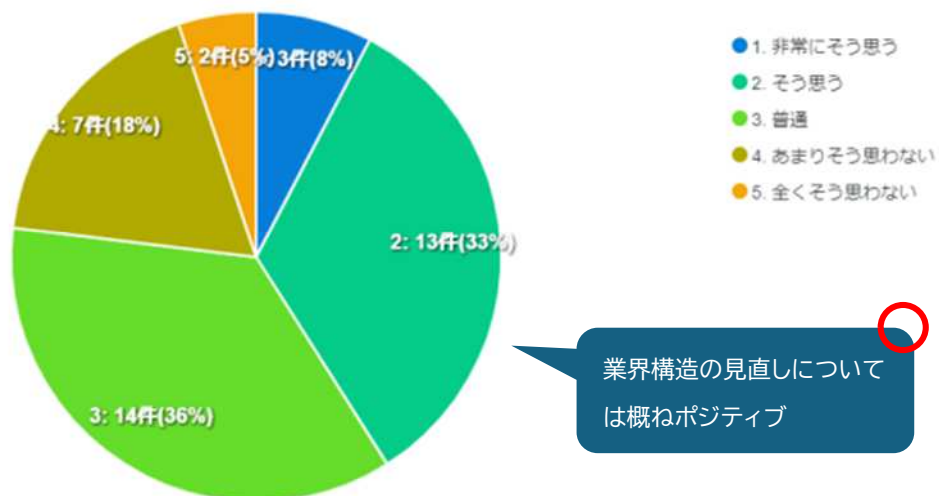
(5) 他分野の事業者のノウハウ（例：IT、AI、ロボティクス）を取り入れることで、業務が効率化すると考える。



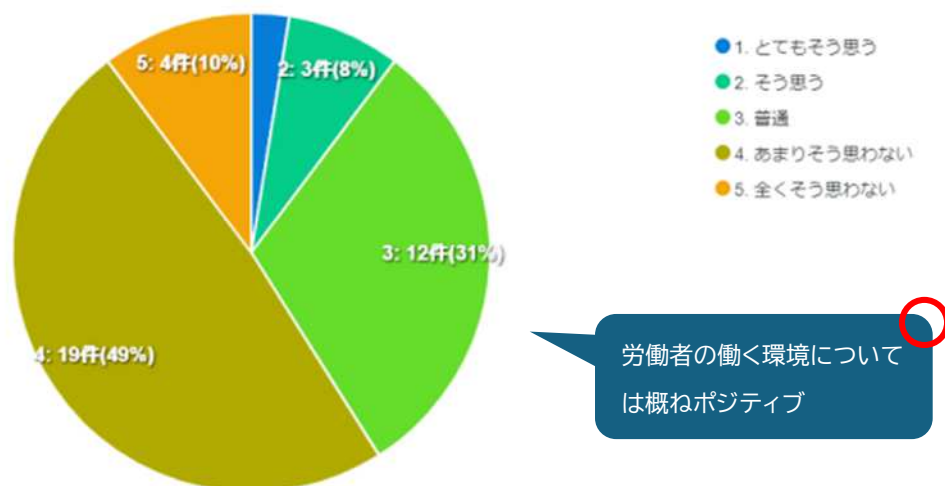
(6) 既存の業界文化や慣習が、新しい技術や\*\*他社との連携（イノベーション）\*\*の大きな妨げになっている。



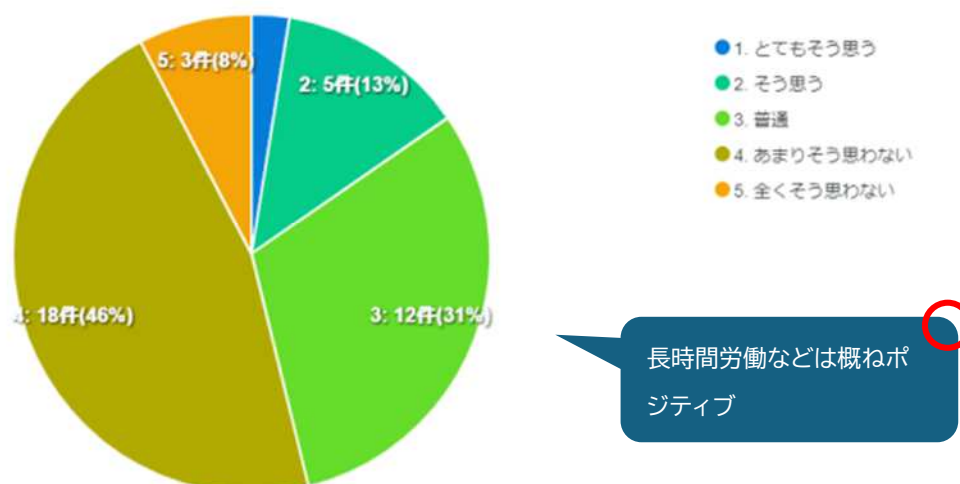
(7) 近年における資材価格の高騰などで経営は不安定化しており、業界の構造そのものを見直す時期である。



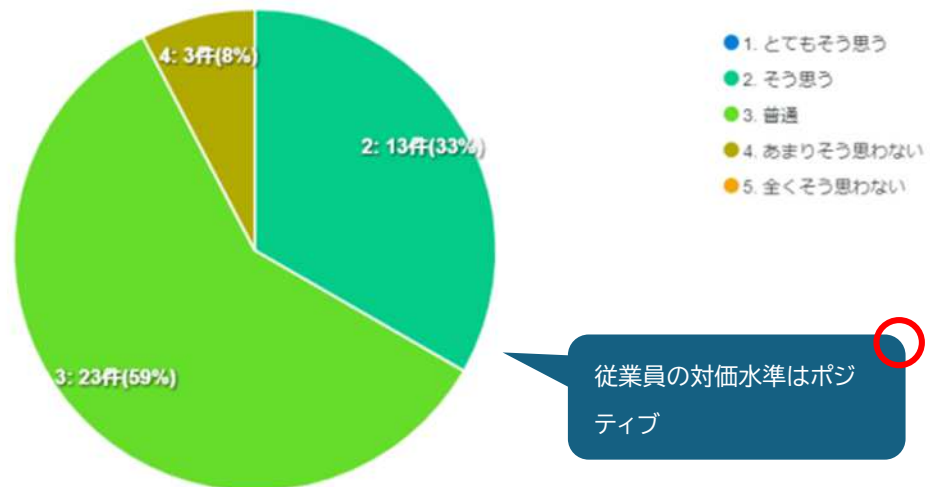
(8) 社員が十分な休暇を取得できる環境が整っておらず、仕事と生活のバランスが取れない。



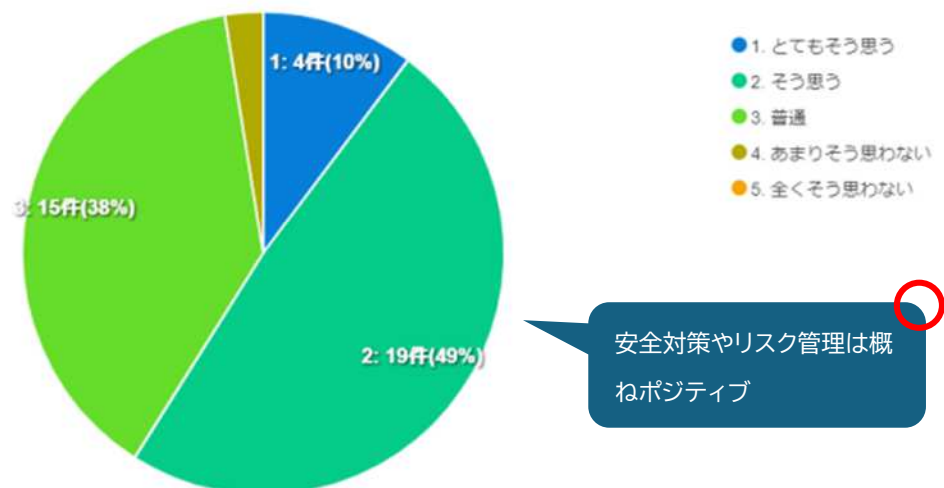
(9) 長時間労働が常態化しており、労働環境の改善が急務である。



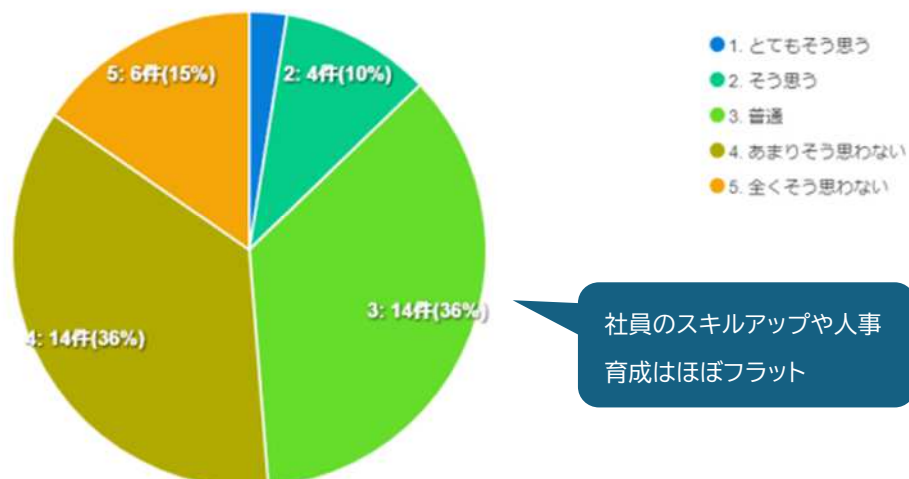
(10) 従業員の\*\*対価（給与・福利厚生）\*\*は、仕事内容とリスクに見合っており、十分な水準にある。



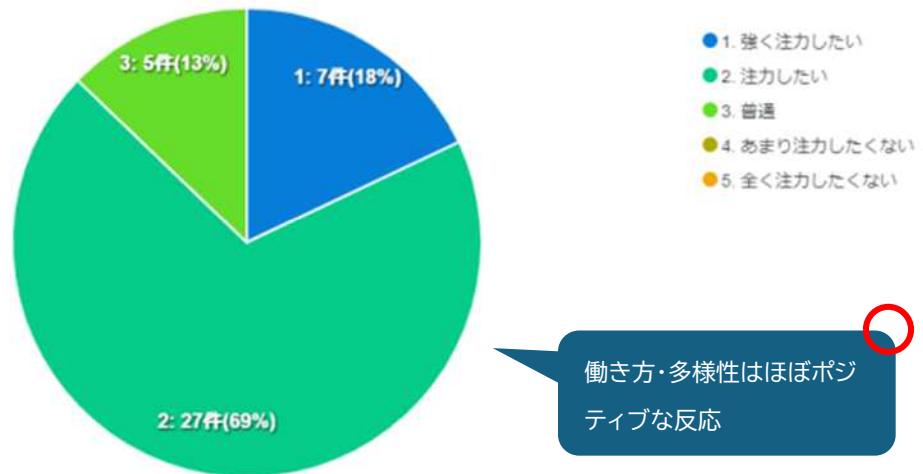
(11) 健康リスクや重大な事故の発生に対し、十分な安全対策とリスク管理ができている。



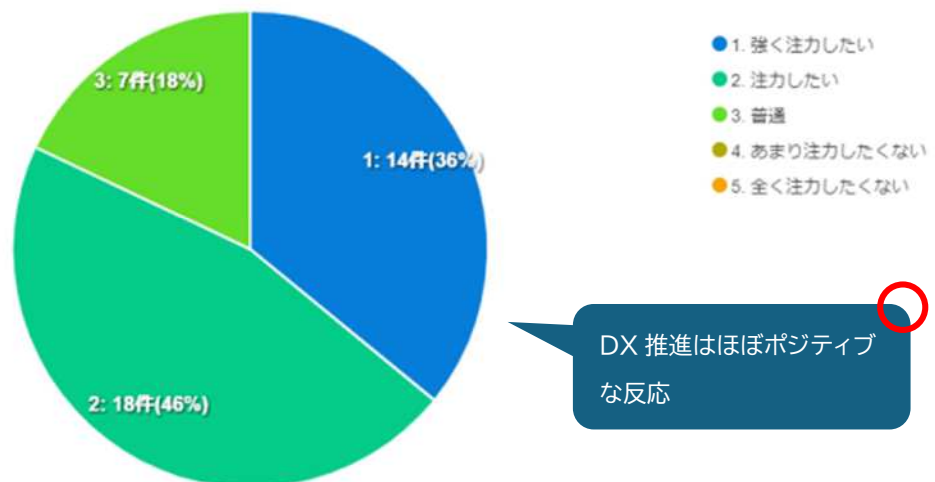
(12) 資格取得支援など、社員のスキルアップや人材育成に対する投資が不十分である。



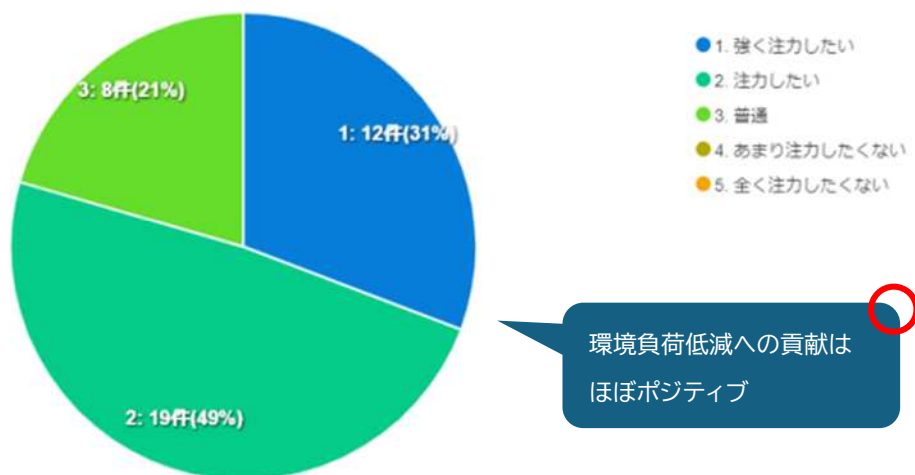
(13) 働き方改革を強力に推進し、多様な人材（高齢者・女性）が活躍できる組織を目指したい。



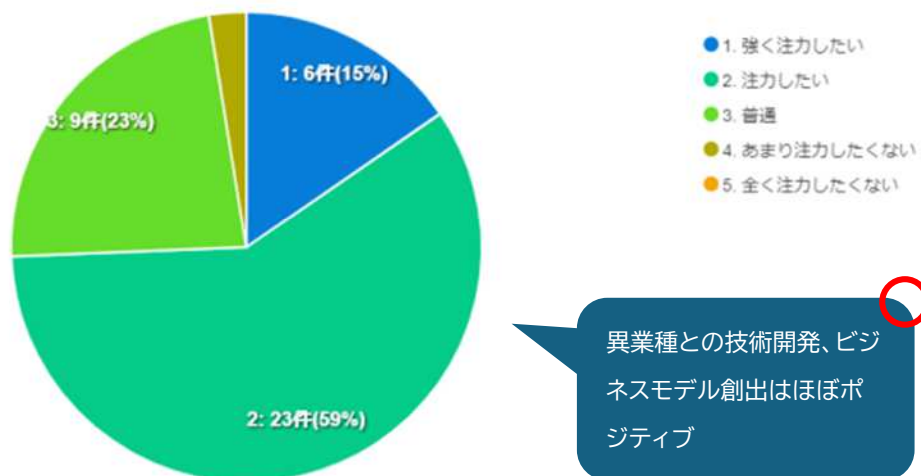
(14) \*\*DX（デジタルトランスフォーメーション）\*\*を推進し、業務効率を向上させたい。



(15) \*省エネ、カーボンニュートラル、環境共生（GX）\*\*など、環境負荷低減に貢献することで企業価値を高めたい。



(16) 異業種連携による新たな技術開発やビジネスモデルの創出に挑みたい。



(17) 以上を踏まえた上で本市ウォーターPPPへの参加を希望しますか。

